

## 山国町文化財愛護青年団の誕生と歩み

泉 一 徳

### 一 グループ結成の動機

#### (一) 町の概況

山国町は大分県の北西部に位置し、東西七詰、南北一六詰、人口四六九二人、農業・林業を主体とする山村である。英彦山（二二〇〇呎）を源とする山国川が町内を縦貫し、耕地は狭あいである。英彦山・鷹ノ巣山（九七九・三呎）・犬ヶ岳（一一三一呎）山塊を境に福岡県と接し、北東に耶馬溪町、南に日田市と境している。

大正一三年に、耶馬溪鉄道が守実まで開通し、昭和四六年まで町民の貴重な交通機関として親しまれてきたが、時代のすう勢によってやむなく廃止された。今日では、国道二二二号線、県道行橋守実線・県道白地日田線、町道長尾野線にバスの便があるだけである。

こうした現状の中で、教育委員会では「心豊かな美しい町づくり」、「文化の香り高い町づくり」をスローガンにかかげ、町民みんなの手で具現化しようと努力している。

#### (二) グループ結成の動機

昭和五三年に山国町郷土誌叢書第一集が発刊され、広く町内の文化財が紹介された。以来、十二集まで刊行されている。このような機運の中で、昭和五四、五五年にかけて、藩政時代に組頭をつとめた神尾家住宅の復元工事がなされた。町内や近隣

市町村はもとより九州各県や遠く外国からも国指定重要文化財の神尾家宅を見学にするようになり、除々にではあるが、文化財愛護のムードがかもしだされるようになった。

このような時、国の補助事業である青少年地域活動育成事業の指定を受けたことを契機に、「むら」らしい「むら」づくりの一環として、郷土の文化財を大切に、文化財との語らいのできる仲間づくりの手立てとして、山国町文化財愛護青年グループ（五五年）と三郷小学校文化財愛護少年団（五八年）の結成をみる事ができた。

## 二 グループの活動状況

### (一) リーダー養成のための研修会への派遣

従来における山国町の文化財関係の諸活動は、文化財調査委員会を中心に行われてきた。しかし、調査員の高齢化ともあいまって手足となって活動できる若いグループ集団の誕生が強く望まれるようになった。グループ結成と同時に山国町の文化財について広く説明を聞くとともに、町内にある文化財に対して理解を深め、グループ員の資質も高めるための議義と座談を開催した。以後、町内での研修は古文書（近世文書を中心にして）の解読、拓本の取り方等々と極く身近かな資料をもとに研修を重ねていったが、グループ員の中から核になるリーダーを養成するため、更には専門的知識を習得するために、県の主催する「文化財指導者講習会」に積極的に派遣することにした。昭和五六年に由布院町へ、翌五七年には県南蒲江町に、そして五八年には、文化財愛護少年団の核になるリーダーを竹田市にそれぞれ派遣することができた。

こうして、山国町における諸活動の推進は県の主催する指導者講習を受講したリーダーに負うところが大きいといわねばならない。

### (二) 文化財パトロール

山国町には、国指定文化財が四件、県指定文化財が三件、町指定文化財が十三件、町指定予定文化財が二一件、数えられる

が、未指定文化財については、まだまだ調査が十分でなく、台帳の整理も終わっていないのが現状である。これらの文化財については、少数の文化財調査員が全般について知っているだけで、大方の町民には無関心であったり、知る機会に恵まれていなかった。こうした中で町民の素朴な信仰の対象として祖先から管々受け継がれてきた貴重な石造文化財等が近年相次いで盗難されるといふ恐ろしい事件が発生した。そこで文化財パトロールを文化財調査員と共に実施し、文化財のチェックと、学習、調査を行った。

昭和五六年には、文殊堂周辺の調査と石造文化財の修復作業を文化財調査員・地元の人達のご協力をいただいて実施した。文殊堂周辺には古い石塔やその残欠がたくさん残っている。五輪塔・宝篋印塔・宝塔など密教系とおもわれるものであるが、これはこの地域が彦山・三所権現の神領であったころの名残りかも知れない。材質は、溶結凝灰岩製のものが多く、基礎・塔身・笠・宝珠と残欠を整理して作業をはじめたがなかなかキツチリと組めるものがなく、一基一基素人なりに丁寧な修復を行った。

昭和五七年には、所小野不動尊に溝部小学校の高学年の生徒達とパトロールしたが、暗い洞奥の壁に浮かんだ不動明王の磨涯仏に英彦山信仰の歴史の重みを感じさせられた。周囲には、享保期の石仏群が林立し、民衆信仰として最盛期を迎えたであろう片鱗が伺われた。

### (三) 民俗調査

急速に消滅しつつある民俗資料の記録を作成し、その保存を図ることは国民的課題であるといわねばならない。しかしながら、現実には、生活様式の急速の変化と経済の発展に併ない先人達が管々と築きあげ残してきた貴重な文化遺産が衰滅変容している。このような現状を踏まえ昭和五年から昭和五六年にかけ、町内を一四地区に分け各種のしきたりや行事等を古くから聞きとりを行ない民俗地図を作成した。又その聞きとりの過程の中で古文書の目録づくりや民俗資料の目録づくりも合わせで行うことができた。<sup>1)</sup>

山国町は、山国川の上流地域に位置し、林業と農業との兼業地域である。藩政時代には町内の三郷・溝部地域が天領に、槻木地域が中津藩によって支配された。明治維新で天領は日田県となり、中津藩領は中津県を経て小倉県、福岡県と変遷した。更に明治九年に大分県の管轄となり、昭和二二年に三郷村、溝部村、槻木村となった。<sup>(2)</sup>

こうした地域の歴史の中で、最近農林業の機械化と生活様式の都市化にもなって、貴重な民俗文化財が失われていこうとしているそのために、衣・食・住・生産・運輸・信仰を中心とした民俗の聞きとりを土地の古老をたずねて行うとともに、民俗文化財についての目録づくりを行った。

#### 四 先進地への研修

山国町の文化財愛護青年グループは、ささやかながら独自の調査・学習活動を続けているが、なんといっても先進地を視察し、学習し研修を深めることは、会員の資質を高めるとともに有形無形の成果を収めることができる。そこで昭和五五年に国東歴史民俗資料館を、昭和五六年には、日出町の辻間楽との交歓会を昭和五七年には蒲江町の民俗資料室の見学と交歓会を実施することができた。

また、昭和五七年度大分県石造美術研究会第三回例会が国見町で開催された折にも参加させていただき入江英親先生からお話も聞くことができた。

### 三 今後の展開と計画

青年達の地道な諸活動を更に補充強化し、町内一円に輪を広げていることによって、町内にある未調査文化財の掘り起こし、既存の文化財の歴史的な考証など新しい分野にも心がけていきたいと考えている。こうした活動に対して、一般町民のご理解とご協力が得られるようになり、民俗文化財の寄贈が相次ぎ会員を喜ばしている。

また、文化財パトロールを中心に貴重な町内の民俗文化財等の保護と愛護を図っていきたい。

終りに、時代の要請でもある文化財の調査整理・収集等を行うことは、緊急にして重要な課題であることを十分に認識し、更に諸活動を展開していきたいと考えている。

(1) 昭和55年度

報告書

山国町青少年地域活動事業

81 報告書

山国町教育委員会

82 報告書

山国町教育委員会

(2) 山国町郷土誌叢書第一集、第二集

山国町誌刊行会

山国町教育委員会

## 会 告

※ 会費のご納入は、次のいずれかでお願致します。

- (1) 郵便振替口座 下関八・五二九四 大分県地方史研究会あて (振替口座が変更になりましたので御注意下さい。)

- (2) 大分銀行県庁内支店・通普預金口座 一・六・四・三・二・一 大分県地方史研究会あて

※ 会員の方で、本誌以外に論文等を発表された時は、抜刷等を本会あてお送り下されば幸いです。また出版された時は、チラシか出版物をお届けいただければ、販売のお手伝を致します。